

(様式2)

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102481		
法人名	社会福祉法人 からし種の会		
事業所名	高齢者グループホームからし種の家		
所在地	新潟県新潟市西区小針西1-4-22		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2003年(平成15年)に介護保険施設となって14年、その前身から数えると19年が経過しているホームです。住宅地のなかに一般の家庭と同じように建っていて、まさに地域のなかで普通に暮らしています。なかに入ってもその造りからして家庭的な雰囲気そのままです。地域の自治会に加入し、回覧板やゴミかごの設置、一斉清掃等地域の一員として協力して行っています。毎年春には笹団子作りを御利用者様と一緒にいき、ご近所にお裾分けするのは恒例となっています。また、地域のコーラスグループの方々や新潟の民話の語りべなど、年に2回催しているお楽しみ会に、ボランティアさんが演目を披露していただき、地域の方々も多数参加していただいで交流を深めています。また、食事作りや傾聴でボランティアされる方の参加も増えています。火災等災害時の協力体制についても自治会長様をはじめ、ご近所の方々が連絡網のなかに加わってくださっており、ホームの避難訓練にも積極的に参加して下さっており、心強いかぎりです。敬老の日には自治会よりお祝いの品を届けていただき、いつも気にかけていただいていることが、入居者職員一同とても嬉しく、ありがたく、感謝しています。当初よりずっとお世話になっている地域の床屋さんは入居されている方々の状態に合わせて会話しながら散髪されていることもとてもありがたく感謝していることのひとつです。こうして地域の様々な方々の優しさに包まれて、からし種の家のみなさんは日々穏やかに暮らしていらっしゃいます。ホームでの暮らしは、全体としてゆるやかにまとまりながらも、お一人おひとりの生活のリズムを守りながら支援しています。職員は、日頃から小さな気づきを大切に、よく協調し連携を図り、「その人らしさ」を大切にしたいチームケアができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、グループホームが制度化される前に、法人の代表者が身寄りのない一人の高齢者の居場所として任意団体を立ち上げたことに始まる。開設から19年(介護保険事業となって14年)が経った現在も、管理者、職員ともキリスト教の愛と自由の精神に基づき利用者一人ひとりがその人らしく日々を送れるように支援している。

事業所は新潟市内の閑静な住宅街にあり、一般住宅と変わらないその外観は周囲の風景に溶け込んでいる。開設以来の地道な努力により、地域との交流や近隣との付き合いも定着し、日頃の散歩や行事での交流のほか、自治会活動、防災等を通じて地域住民としての役割も担っており、地域との相互関係が確実に醸成されている。事業所内で催し物があるときには、地域住民にも知らせて利用者と一緒に楽しんでもらったり、春にはボランティアの協力を得て利用者とともに笹団子を作って近隣にお裾分けするなど、地域の中で暮らしていくことを実践している。事業所内は家庭的な生活環境と大きく変わらず過ごしている。

基本理念に、「一人ひとりのその人らしい暮らしを自立・継続支援していくことを目指す」とあるように、利用者に寄り添いながら、それぞれができることや生きがいを見い出してその人らしく過ごすことができるようさりげなく支えている。

事業所には多くのボランティアが関わっており、地域住民の協力も得ながら地域に根差し、今ではなくてはならない事業所となっている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく暮らしていけるよう、全職員は理念や方針を共有し、その実現に向けて日々入居者の方々と向き合っている。	キリスト教精神に基づいて開設時に作られた理念とそれを基にした基本方針を、職員は大切に守りながら利用者に関わっている。新しい職員には研修や全体会議で管理者が伝えるだけでなく、ベテラン職員が日常のケアの現場で行動を通して伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会して回覧板を回したりゴミかごの設置や一斉清掃等協力して行っている。入居者の方々と地域のお店へ買い物に行ったり、美容院の利用等、日常的に交流できている。年2回ホームでの催しや地域の演奏クラブの参加など、ご近所の方々をお招きしている。	自治会に加入して総会へも参加しており、回覧板を利用して行事等の事業所の取り組みを発信している。ゴミ置き場の掃除や事業所周辺の側溝の清掃などを地域住民と協力して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常のご近所との交流やホームでの催しに地域の方をお招きしたり、ボランティア、実習生の受け入れ等、外部の方々の協力を受けながら認知症への理解や支援の方法を地域の方々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、それぞれの参加者の立場からの意見や情報について話し合い、また相談にも応じていただいている。そして、それらをサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催しており、メンバーは、利用者、家族代表、自治会長、近隣住民代表、地域包括支援センター職員で構成されている。会議の内容は事業所からの報告が主だが、地域からの情報を得る場ともなっており、災害時の避難所等の情報もこの機会に得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の窓口担当者とは、業務上、手続上の相談や指導を仰ぐ等しており、地域包括支援センターの方からもサービスの向上に向けてアドバイスをいただいている。	地域包括支援センターとは、利用者への対応や利用希望者のことなどをいつでも相談できる関係ができている。また、区役所には生活保護の利用者の支援や手続きなどについて相談し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修のなかで身体拘束となりうる具体的な行為について再確認しており、毎月の職員会議で思い当たることはないか、お互いに問うている。玄関は夜間以外オープンであり、身体拘束は行っていない。	全職員が身体拘束について正しく理解しており、身体拘束を行わないケアを実践している。ベテラン職員が模範を実践することで、他の職員も不適切なケアを行わないように注意している。また、職員会議でも話し合っって職員個々の自覚を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で高齢者虐待防止法や事例について職員全員が学び、そのような対応がないか毎月の職員会議や日々のケアの中でも確認し合っている。	高齢者虐待防止関連法については、外部研修や集団指導の資料を使用して内部研修を行っている。現場で不適切な対応等が見られた場合は、職員同士で注意し合ったり、ベテラン職員が指導している。毎月行われる職員会議の中でも、職員のケアの内容をチェックしたり話し合いを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居中の方々に生活保護を受けている方がいることから、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち、また実際の利用状況からも勉強することが多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は十分に説明の時間をとらせていただいている。改定時については事前に説明会を開いてご理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者の意向を臆さながら生活を営んでいる。ご家族も頻りに訪問してくださっているので、ご様子などをお伝えし意見や要望等お聴きして対応している。運営推進会議に、ご家族代表として出席されご意見等いただいている。	日常生活の中で職員が利用者から意見や要望を聞き出している。面会や通院支援で家族が来訪した際に職員から声を掛けて意見の聴取をしている。遠方の家族に対しては、電話連絡等の際に遠慮なく意見を言ってもらうように伝えている。	事業所として普段から利用者や家族の要望や意見を聞き取っているが、さらに潜在的な意見や要望等を聴取するために、アンケートや利用者満足度調査など意見を吸い上げる様々な方法について職員間で検討することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議、その他日常的に意見や提案を出し合える場や機会を設け、出た内容をさらに皆で検討して運営に反映させている。	管理者は、日常的に職員とコミュニケーションを取って意見や提案を聞いている。毎月の職員会議には、法人の代表者も出席し職員の意見や要望を聞く機会としている。平成28年度は職員にアンケートを取り、夜勤時間帯の職員数を検討したり、会議の開催時間や役割等の見直しを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、週2回夜間は4時間の二人体制の維持、非常勤者への賞与、国家試験受験への支援、外部研修への参加等職場環境の整備や職員の資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、それぞれの職員に合った内外の研修の機会を設け、受講できるように配慮している。また、職員会議でも研修や勉強の機会を作り、知識や技術の習得を図るようつとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互に職場研修の機会を設けるよう努めたり、講師を招いた講演会を地域のグループホームにも呼びかけて行いたいと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族にご本人の生活歴等を教えていただき、できるだけこれまでの生活に沿った援助または改善に向け、ご家族やご本人が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際にはご家族が困っていることや不安なこと等お聴きし、入居となった時にも心配なこと、ご要望等一つ一つ丁寧にお聴きし、対応して信頼関係を築けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望やご家族の意向・その時のニーズを見極め、ホームで対応できること、できないことを伝えながら、場合によっては他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者一人ひとりの力を見極め、ご本人の持てる力を十分に発揮して頂けるように働きかけ、またいろいろなことを教えていただきながら持ちつ持たれつの関係ができています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも訪問しやすい雰囲気作りに配慮し、ご家族との時間を大切にしている。また、心身の状態についてもご家族に連絡、相談をしてすみやかな対処を心掛け、一緒にご本人を支えている。	家族が面会に来た際は、利用者と一緒に過ごせるように配慮している。また、居室の様態替えや衣替え、通院支援を家族にお願いすることで、事業所とともに本人を支える関係を築いている。利用者が入浴を拒否した際には家族に相談をして関わってもらうなど、利用者がよりよい生活を送れるように家族とともに支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が訪問しやすい雰囲気を日頃から作り、またよく行っていたお店への買い物や外食等以前からの関係が継続できるように努めている。	家族以外の知人等が訪ねた来た場合にも、居室等でゆっくり過ごせるように配慮している。食材の買い物や外食の際も馴染みの店に行けるように支援している。普段の会話の中で利用者が話した昔の行きつけの店や馴染みの場所などは、家族に連れて行ってもらえるよう協力をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見守りつつ、必要に応じて職員が間に入って人間関係が円滑になるよう調整している。また、入居者同士がお互いに気遣う姿がみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、お楽しみ会に参加され、ご本人を励ましたり、応援していただいて今後も交流が持てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望む暮らしがホームでもできるよう、日々の会話のなかで意向を把握したり、表情や態度から口では表せない気持ちを汲み取る努力をし、それを含め疑問に感じたことを職員間で常に話し合っている。	日々の暮らしの中や入浴時の何気ない会話の中で利用者の思いや希望などの把握に努めている。利用者が思いを伝えにくい場合には、家族からの情報や普段の様子等から職員が推し量り、把握するよう努めている。	入居時に聞き取った内容はきちんと記録されているが、入居後に把握した内容の記載が少ない。入居後に把握した内容についても、きちんと記録していく仕組みづくりを望みたい。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族または関係者から、これまでのご本人の人生についてできる範囲で教えていただいている。また、入居されてからは日頃の会話や日常生活で再度認識されることが多い。	入居に当たっては事前訪問を行い、これまでの生活や習慣などを利用者、家族から聞き取っている。入居前に利用していたサービス事業所や入院していた病院、担当居宅介護支援専門員等からも情報を得てアセスメントシートに記入し、職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人の気付きを大切にして、入居者一人ひとりの日々の変化を申し送りや記録、職員間の伝達、職員会議等によって常に情報共有できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれの担当職員がモニタリングをし、他の職員の意見も聞きながら次の介護計画に繋げている。また、介護計画見直しの時にはご家族の意見要望をお聴きしてから作成している。	入居時に、事前のアセスメントを基に暫定計画を立て、入居後に事業所での生活状況を確認して、計画作成担当者が担当職員と他の職員から意見を聞きながら、入居1か月後を目途にした本計画を作成している。毎月のカンファレンスの中でサービス内容について確認し、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。計画の更新は基本的には1年ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やそれに対する対応などをケース記録に記入し、介護計画に沿ったケアができているかを確認してその後の実践や介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方で急病時対応できない時はホームで通院に付き添うこともあり、外部の介護支援サービスを利用することも薦めている。また、有償のボランティアの利用も案内している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域の商店、理容院美容院、学校学生、傾聴・メイクボランティア等、また職員を通じての関係など様々な社会資源を活用して安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居以前からのかかりつけ医・病院を継続していただいております。訪問診療を希望されるご家族には情報提供しているがこちらも制約はない。それぞれのかかりつけ医には必要に応じて文書で病状を伝えている。	利用者は、基本的に入居前のかかりつけ医を継続している。通院付き添いは家族にお願いをしているが、必要があれば利用者の状況を文書に記載して家族に渡し、主治医と連携を図っている。日常的には、週1回勤務の看護職員が利用者の健康チェックを行っており、体調の変化に早めに気付くように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が健康チェックを行い、日常的にはヴァイタルチェックを介護職が行っている。介護職はいつもと違うという気づきを大切にして看護師に伝え対応を相談して、早めに受診等できるよう連携している。急を要する時は、電話で連絡がとれる体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、病院に情報提供しスムーズに医療が受けられるよう配慮している。また、職員が訪問し病状を把握したり、ご本人が安心できるよう配慮している。医師の病状説明時には、今後の対応がすみやかに支援できるよう同席することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化および看取りに関する指針について説明を行い、状態が変化した時にはその都度ご家族と話し合い意向の確認と、ご家族、医師、ホーム、訪問看護ステーション、ボランティア等協力体制が図れるよう努めている。	重度化や終末期の方針については、契約時に利用者、家族に文書で説明をし同意を得ている。重度化や終末期の対応についての研修を定期的に行っており、利用者の状態に変化があった時は、早めに主治医や家族と話し合い、今後についての方針を検討している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法の講習会を地域で開催し職員は順次受講している。また、感染症、誤嚥、けが、やけど等の応急処置についても職員全員周知するよう講習会を行っている。	感染症の対応などの研修を毎年行っており、救急救命法の研修は、全職員が受講する機会を確保している。緊急時のフローチャートや緊急連絡先なども見やすい場所に掲示している。	けがの対応や応急処置などについては、週1回勤務の看護職員を講師とした研修を行うなど、職員の実践力のさらなる向上を図ることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災・避難訓練を実施し、そのうち1回は地域の方々の参加・協力を得て消防署立ち合いのもとで行っている。また、自動通報装置には近所の方々の連絡先が登録されており、初期対応の協力体制ができています。	防火管理者を中心に、年2回の防災訓練を実施しており、1回は夜間想定で行い、地域住民の協力も得られている。運営推進会議を通して地域とのつながりもあり、協力体制もできています。	災害時の対応マニュアルに「地震発生時の対応」についても追加してはどうか。災害時対応マニュアルを職員が見やすい場所に設置していつでも確認できるようにし、災害に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりのこれまでの人生を充分思いやり、人格を尊重し、プライドやプライバシーに配慮した丁寧な言葉かけの対応を心掛けている。また、自然に方言を用い、親しみのある言葉かけとなるよう配慮している。	利用者の一人ひとりをよく知ることで、その人がどのように生活したいかを理解し、それに沿って日々の生活を支援している。トイレ誘導の際は周りに気を配りながら行い、対応が難しい利用者の対応は、職員全体で話し合いプライドを傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながら、ご本人の気持ちを汲み取れるように努めている。また、日常生活の様々な場面でご自分の思いを表し、ご自分で選んだり、決めたりすることができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴のスケジュール等およそ決まっていることはあるが、それも各人の体調や気分等によって柔軟に対応し、個々人のペースを尊重した対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や場の雰囲気合った服装ができるよう、さりげなく配慮している。また、一緒に衣類の片づけなども支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえから調理、盛り付け、配膳、食事、後片付けまでそれぞれの方が持てる力を発揮しながら、職員と一緒にやっている。また、食欲が落ちている方は好物を食卓に載せたり、食べやすい工夫をし食べることが楽しみとなるよう支援している。	献立は利用者の好みを聞きながら職員が作成している。食材は主に配達してもらっているが、近くのスーパーに利用者と買い出しにも出かけている。食材の下ごしらえや盛り付け、食器拭き等は利用者の役割としてしてもらっており、行事食や誕生日など利用者の楽しみとなるような食事や、季節感のある食事の提供も心がけている。季節には笹団子づくりなどを行って近所にお裾分けをするなど、食事に楽しみを見出せるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の状態に応じて食事量や形態を調整している。食事量が少ない時は補食として甘い物(ゼリー、プリン、ミルク)や菓子などお好きなものを提供して栄養、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員に歯磨きの声かけや、必要な方には介助をしている。また、必要に応じて歯科医による訪問治療・指導もお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄パターンや排泄状況を把握し、できるだけトイレで排泄できるよう声かけ、支援している。	利用者それぞれに合った排泄用品を使用することができるトイレで排泄ができるように支援している。トイレ内は、適所に手すりやアームレストが設置され、足置きシートが張り付けてあるなど、安心して排泄ができる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中でできるだけからだを動かせるよう掃除を日課にしたり、テレビ体操をしたりしている。ヨーグルトを毎日提供している。また、牛乳や食事内容にも配慮し状態に応じては便秘薬を調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	およそのスケジュールはあるが、ご本人の様々な理由で入浴できない時は時間や日を改めてお誘いする等柔軟に対応している。また、入浴前にはヴァイタルチェックを行い体調に合わせて対応し、湯温は調節して気分よく入浴して頂けるよう個人に合わせた対応をしている。	基本的には週3回入浴できるように曜日や時間は決められているが、利用者の希望や体調によって無理強いをせず、利用者が気持ちよく入れることを優先している。入浴の一連の流れを職員がマンツーマンで対応し、希望に応じて同性介助にも対応している。時には柚子湯などの変わり湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中自室で休まれる方や朝夜が遅い方等一人ひとりの体調や生活リズムに合わせた支援をしている。就寝前、部屋の環境を整え安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に毎回それぞれの薬の効能を記入するようにしており、書くことによって覚え、また誰が見てもわかるようになっている。職員二人で薬をセットし確認している。氏名を確認の上、ご本人に薬を手渡しし、必要に応じて介助し飲み終わるまで確認している。特に処方に変更があった時は症状の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のかかわりの中でご本人の希望や持てる力を把握し、それぞれの力を発揮されている。たとえば、好きなコーヒーを入れること、食事の準備をすること、編み物をする、紙箱を作る、掃除をすること…。また、お出かけや外食、コーラスの観賞やお楽しみ会、ボランティアの方たちとの交流が楽しみとなるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候がよければ、散歩に出かけたり歩いて近所への買い物、またドライブ等、支援している。ご本人が出かけてくると言われれば、可能な限りその時に一緒している。個別の外出支援や季節を感じる外出等、ご家族やボランティアの協力を得ながら支援している。	近所へ回覧板を届けたり、天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、近くの公園へお花見に出かけている。近くのコンビニへ利用者とおやつを買いに行ったり、近くの飲食店で外食したり、スーパーへ食材の買い出しにも出かけている。行事としてブドウ狩りや紅葉狩りなど遠方にも出かけている。利用者の希望によっては家族にも協力してもらい、できる限り外出の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々人の希望や力に応じて金銭管理の方法を選択できるように配慮している。支払時は、ご本人にお聞きしながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時はホームの電話を使用できるよう支援している。また、手紙やお礼状を出すよう働きかけたり、一緒にポストへ行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節のイラストを描いたA0の手作りカレンダーを貼り、季節の飾りもさりげなく施されている。リビングから中庭を眺めは季節の移ろいを感じることができる。廊下には生活の様子がわかる写真を飾っている。カーテンで眩しい光を遮ったり温湿度計によって室内環境を調整している。	建物は2階建てで居室は1階と2階に分かれているが、ホームエレベーターで足の悪い方も2階へ行き来できるようになっている。リビングから中庭が眺められ、季節を感じることができる。リビングには季節の花を活けたり、季節感のある飾り付けをして、さりげなく家庭的な雰囲気を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでは自由に座って、会話されたりテレビを見たりまたはうとうしたり、時には横になったりしてくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や身の回りの品は、それまでご本人が使っていた馴染みのものを持ち込んでいただくようお願いしており、それぞれ個性豊かな部屋となっている。	居室にはそれぞれ自宅で使い慣れた家具等が持ち込まれている。居室内の家具等の配置は、入居前の事前訪問で確認した自宅の自室の配置に近づけるなど、利用者が暮らしやすい環境になるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時々の入居者の状態に合わせて手すりを付足したり、トイレや押入れを改造し、わかりやすい表示や目印を設けることで安心して安全かつ、できるだけ自立した暮らしができるよう配慮してきている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				